

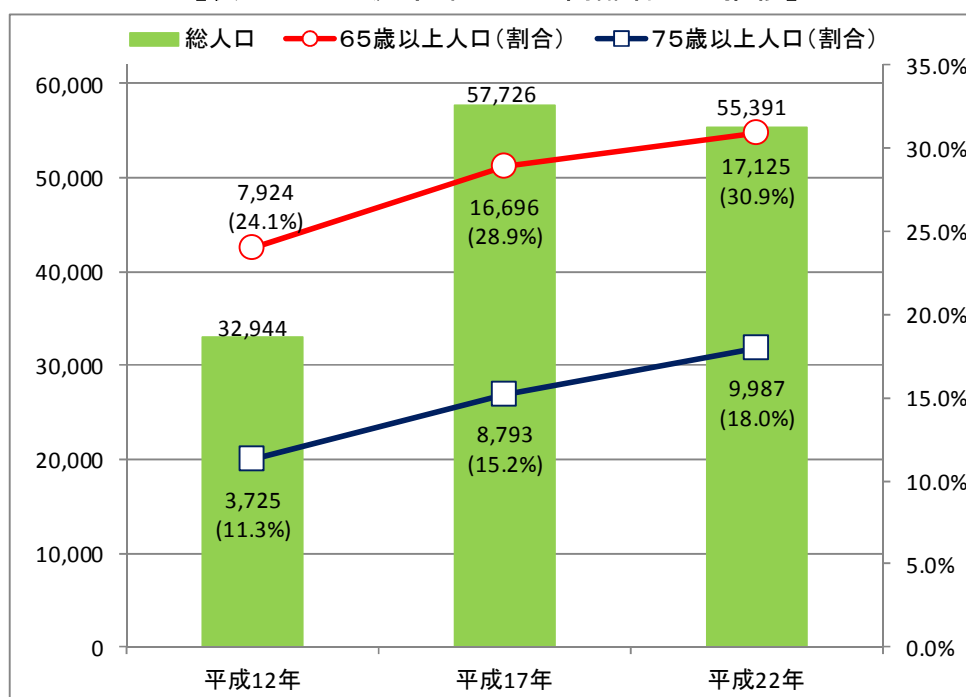
# 熊本県山鹿市 認知症サポーターの養成と活動の支援 「認知症地域サポートリーダーの養成と活動」

## 1 山鹿市の概況

### (1) 高齢者人口

山鹿市の総人口は、平成12年から1市4町が合併した平成17年にかけて約2万4千人増加し、平成22年にかけては、約2千人減少している<sup>1</sup>。65歳以上の割合は、平成22年には30.9%となり、約3人に1人が高齢者となっている。

【表1-1 山鹿市 総人口と高齢者人口推移】



出典：国勢調査よりアフターサービス推進室作成

### (2) 認知症高齢者数

65歳以上の要支援・要介護認定者のうち「認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上<sup>2</sup>」は、平成23年度の50.8%から平成25年度の61.3%と10%以上増加している。

【表1-2 山鹿市 介護保険の認定状況等 (各年度3月末時点)】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
1号被保険者数	17,102	17,156	17,485	17,857	18,183
要介護認定者数	3,603	3,657	3,713	3,703	3,615
1号認定者数	3,507	3,559	3,621	3,618	3,536
2号認定者数	96	98	92	85	79
認知症高齢者数(人)※		1,849		2,228	
割合(%)		50.8		61.3	

※65歳以上の要支援・要介護認定者のうち「認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上」の割合  
出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成

<sup>1</sup> 出典：総務省 平成12年国勢調査、平成17年国勢調査、平成22年国勢調査。65歳以上人口数及び75歳以上人口数の割合は、高齢者人口数に基づいてアフターサービス推進室で作成した。

<sup>2</sup> 山鹿市における認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上の数値は計上している年次のみ掲載した。

## 2 山鹿市の認知症支援に関する取組（平成27年12月末時点）

山鹿市では、平成19年度から認知症地域支援施策推進事業<sup>3</sup>を実施し、医療・介護・行政の専門職で構成する地域資源ネットワークの体制づくりを進め、地域においては、認知症支援の拠点として、地域密着型サービス事業所等とネットワークを構築する取組を推進している。

地域資源を活用したネットワークにおける認知症支援の取組を実施する人材の育成を目的として、山鹿市では、認知症サポーター及び認知症地域サポートリーダーの養成等を継続的に実施し、地域における認知症の理解と啓発を促進している。

【表2-1 山鹿市 新オレンジプランの実施状況（平成27年12月末時点）】

新オレンジプラン			山鹿市の実施状況
7つの柱	具体的な施策	取組	
1	認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進	(2) 認知症サポーターの養成と活動の支援	実施（13,676人）
2	認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供	(3) 早期診断・早期対応のための体制整備	認知症初期集中支援チームの設置 平成26年度から設置
		(7) 医療・介護等の有機的な連携の推進	認知症ケアバスの確立 作成中
			医療介護情報連携ツールの実施 未実施
4	認知症の人の介護者への支援	(介護者たる家族等への支援)	認知症カフェの設置 3か所
5	認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進	(1) 生活の支援	交流サロン等を実施
		(4) 安全確保	(地域での見守り体制の整備) 模擬訓練等を実施

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成

## 3 認知症サポーターの養成と活動の支援

### ＜やまが認知症地域サポートリーダーの養成と活動＞

山鹿市では、市民や事業所職員を対象として、認知症地域サポートリーダー養成講座（以下「サポートリーダー養成講座」という。）を実施している。サポートリーダー養成講座は、「認知症の人や家族への適切なサポート」、「地域住民に対する啓発活動及びネットワーク活動等を実践できる人材の育成」を目的として、地域における認知症支援を実践的に学ぶ内容を中心としており、サポートリーダー養成講座の修了者は、行政と協力して、任意でグループを作り、認知症の理解と啓発を進める地域活動を行っている。



【山鹿市 認知症サポートリーダー グループワーク】

<sup>3</sup> 認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域において認知症への対応（予防、早期発見等）ができる人材や事業所などの地域資源の情報を収集し、有効に活用するネットワークを構築する事業。

## (1) サポートリーダー養成講座の内容

サポートリーダー養成講座は、平成 19 年度から実施しており、平成 27 年度で 8 期を迎え、通算 562 人が修了している。講座内容は表 3-1 のとおりであり、内容に応じて講師を招き、認知症の人の考えや介護の実情を知る機会となっている。講座には、介護事業所や医療機関の職員等も参加しており、地域住民と一緒にグループワークを行い、顔の見える関係づくりを構築している。

【表 3-1 平成 27 年度 第 8 期やまが認知症地域サポートリーダー養成講座(カリキュラム)】

開催日時	テーマ・内容	講師
第 1 回 7月18日(土) 9時30分～12時	開校式・オリエンテーション 「認知症を生きる人と家族を地域で支えるために」 グループワーク「チームづくり」	山鹿市長寿支援課 介護福祉NPO理事長 認知症地域支援推進員
第 2 回 8月17日(月) 13時～16時	「ぼくが前を向いて歩くわけ」 グループワーク「これまでの各圏域の活動」	認知症当事者 認知症地域支援推進員
第 3 回 9月19日(土) 9時30分～12時	「地域でのチームづくり ～だれの何のためのチーム?～」 小規模多機能事業所での体験実習の前に	小規模多機能型居宅介護施設 管理者 小規模多機能型居宅介護施設 管理者
第 4 回 10月24日(土) 13時～16時	講義「まちで みんなで 認知症の人をつつむ」 (徘徊者捜索声かけ模擬訓練について) グループワーク「課題抽出、出来る事を考える」	大牟田市認知症ケア研究会 代表者 認知症地域支援推進員
第 5 回 11月28日(土) 9時30分～12時	「地域での認知症の人の支援と権利擁護」 グループワーク「計画を立てよう」	社会福祉法人 理事長 認知症地域支援推進員
第 6 回 12月19日(土) 9時30分～12時	「認知症介護基本の「き」」 グループワーク「状況報告、情報共有」	小規模多機能型居宅介護施設 代表 認知症地域支援推進員
第 7 回 H28年1月16日(土) 9時30分～12時	「各圏域の活動紹介、課題整理と今後の活動の計画立案」	認知症地域支援推進員
第 8 回 H28年2月27日(土) 13時～16時	認知症市民フォーラム(新庁舎大ホール) 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりフォーラムinやまが」	認知症当事者 認知症サポーター養成講座の取組 (サポートリーダー発表)
第 9 回 H28年3月19日(土) 9時30分～12時	1年間のまとめ 修了式	介護福祉NPO理事長

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成

## (2) サポートリーダー養成講座修了後の活動

サポートリーダー養成講座の修了者は、山鹿市の 8 つの日常生活圏域<sup>4</sup>ごとにグループを作り、地域における認知症支援のネットワーク活動や認知症の啓発活動を企画し、実践している。

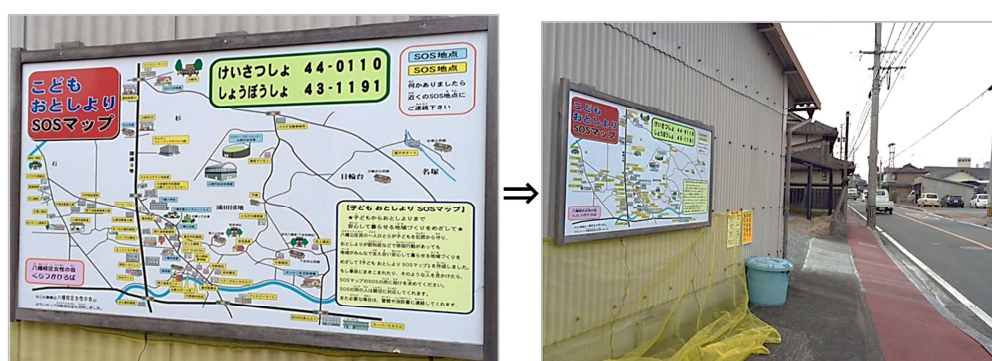
### ①交流会の実施

2か月に1回、各日常生活圏域に集まり、グループワークを中心とした認知症地域サポートリーダー（以下「サポートリーダー」という。）の交流会を実施している。地域包括支援センターが、修了者にも参加を呼びかけ、サポートリーダーの交流から新しい活動が始まる場ともなっている。交流会では、地域の課題を持ち寄り、対策について話し合うほか、地域での認知症に関する正しい知識を啓発する活動の準備を進める場ともなっている。

<sup>4</sup> 各市町村において地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備の状況、その他の条件を総合的に勘案して定める地域。

## ②地域資源マップ・高齢者移動ルート見守りマップの作成

地域資源マップは、地域内で「何か起きたときに SOS を連絡できる」公共施設や商店、民家などの地域資源を知らせるツールである。作成に当たっては、サポートリーダーが地域で支え役となつてほしいところへ出かけて協力を依頼し、認知症の人（個人）の行動範囲を示す高齢者移動ルート見守りマップ<sup>5</sup>の作成にもつながっている。地域によっては、サポートリーダーが予算を集めて、看板を設置するなど、積極的な活動を進めている。地域資源の掘り起こしでもある活動によって、地域住民が認知症の人を細やかに見守る体制づくりが進められている。



【地域資源マップ ごみ収集場所に設置することで、地域住民への認知度を高めている】

## ③徘徊者捜索声かけ模擬訓練

山鹿市では、認知症の人が行方不明になった時に、地域で捜索する仕組みづくりの一環として、「徘徊者捜索声かけ模擬訓練」を行っている。地区の区長とサポートリーダーが中心となり、実行委員会を立ち上げて計画的に進めている。模擬訓練を開始した平成 20 年度は 1 校区だったが、平成 27 年度は 8 校区で 710 人が参加した。地域住民が参加することで、「もし認知症になっても、地域で見守られている」という安心感を得ることができる」ことを目指す取組となっている。

【表3-2 徘徊者捜索声かけ模擬訓練】

目的	認知症の人が行方不明になった場合の捜索に関する連携情報を正しく、迅速に伝え、地域で捜索する
実施主体	地域のサポートリーダー、介護事業所が中心となり校区ごとに計画・実施
参加者	認知症の人と家族 介護事業所 等
訓練内容	①行方不明の認知症の人(役)を地域住民が捜索 ②発見したら認知症の人が安心できるような声かけをする
実施の効果	・地域行事として定着し、住民が主体的に関わるようになった ・近所への声かけや必要な相談が日常的に行われるようになった

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成



【山鹿市の徘徊者捜索模擬訓練の様子】

<sup>5</sup> 徘徊の傾向がある認知症当事者の A さんが歩く道沿いにある人家や商店に地域のサポートリーダーが見守りを依頼し、マップを作成した事例がある。

#### 4 地域における本人・家族・介護者への支援と取組

山鹿市では、「認知症になっても安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を目指し、生活の様々な場面で「支え」になる人づくりや、居場所づくりを進めている。

##### (1) 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

山鹿市では、年に2回（夏冬）、認知症に関する市民フォーラムを開催しており、サポートリーダーの年間の活動を踏まえて、市民フォーラムの内容を企画している。認知症の当事者による講演、小学生による認知症サポーター養成講座の内容紹介など、山鹿市の認知症の取組紹介を中心とした内容である。具体的な取組を住民に紹介することで、認知症の人への理解と支援内容を伝える効果がある。

【表4-1 山鹿市 市民フォーラムの実施内容(平成27年度)】

市民フォーラム(8月)		市民フォーラム(2月)	
・「山鹿市の取組と現状」の報告 ・「知って得する！認知症の症状とその対応」の講演	160人 参加	・若年性認知症の本人による講演 ・認知症サポーター養成講座で学んだ小学4年生の発表 ・リレートーク「広げよう！地域の中でできること」 (サポートリーダー・区長等の活動報告、山鹿市からの報告)	259人 参加

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成

【表4-2 市民フォーラム(平成27年度)参加者のアンケート(一部)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域区で認知症を見守ることが大事だと知った。</li> <li>・地域によって差がある。地域住民との連携はとても大切だが、地域によってはあまり親しくない場合もあり、難しいと感じる。他人事ではなく自分の事として考えても、若い世帯と老人世帯の交流が必要と思う。</li> <li>・いかに近隣の人が関心をもつかが必要だと思った。</li> <li>・沢山の資料と現状の活動がわかりやすかった。認知症になったら迷わず周りの協力を得る事を知った。</li> <li>・初期集中支援チームや認知症地域支援専門員、身近なところに相談場所があると知った。</li> <li>・山鹿市が認知症の先進地と聞き、80歳の私はいつ病気に侵されても安心できる・・・と、気持ちが軽くなった。</li> <li>・最後に認知症は他人事ではなく自分の事として考えようという言葉が印象に残った。</li> </ul>
--

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成

##### (1) 発症予防の推進

###### <介護予防拠点施設での交流>

山鹿市では、地域の拠点づくりとして、地域密着型介護予防サービス<sup>6</sup>を行う施設等に、平成27年度時点で介護予防拠点を14か所整備している。地域の「縁がわ」として、認知症の人や家族、介護者が集まり、交流する場所として開放されており、介護予防として体操教室や茶話会、趣味の活動が実施されている。

<sup>6</sup> 介護保険の利用者が、介護予防を目的として、認知症対応型通所介護施設や小規模多機能居宅介護施設等を利用する。

## ①通所介護事業所「くたみの実家」

「特定非営利活動法人くたみ渋うちわ会」が運営する通所介護事業所「くたみの実家」は、デイサービス「ゆた〜と」に併設されている。介護予防教室「おひさま」は、参加費 100 円のほか、希望者は 500 円を追加で支払えば、昼食を食べることができる。民家を改築した施設に併設されているデイサービス利用者が行き来し、小規模の利点を生かした交流を特徴としており、認知症の人と家族の地域の居場所として効果的に機能している。

施設の管理者は、自身の介護経験からサポートリーダー 1 期生を経て施設を開所した経緯があり、経験を生かした認知症啓発活動に積極的に取り組んでいる。



【くたみの実家  
デイサービス利用者も立ち寄り、和やかな  
雰囲気のなか過ごす】

## ②小規模多機能居宅介護事業所「いつでんくるばい」

「特定非営利活動法人コレクティブ」が運営する小規模多機能居宅介護事業所「いつでんくるばい」では、地域住民が自然にコミュニケーションを図る環境づくりを進めている。介護予防教室「オレンジカフェ」を開催し、利用者は 200 円の参加費を払う。同施設は、曜日を変えて認知症カフェも実施しており、認知症の人が入居する施設に地域住民が訪れ、様々な活動を通して認知症について親しみ、理解する機会を提供する場となっている。



【いつでんくるばい 左:いるでんくるばい入口 中央:居宅介護スペース 右:施設2階・キッチンを併設している】

## (2) 認知症サポーターの養成と活動の支援

### ①学校での認知症サポーター養成講座

山鹿市内の学校では、認知症サポーター養成講座を実施し、サポートリーダーや認知症地域支援推進員が講師を務めている。小学校では、認知症の人への理解や支援について絵本仕立てで学習し、中学校及び高等学校では認知症に関する講義となっている。講座の終了後は、グループごとに発表するなどフィードバックの時間を設け、振り返りの時間を作ることで、児童、生徒が認知症を身近に考え、理解がしやすいよう工夫した内容になっている。

【表4-3 絵本教室実施後の感想 小学4年生(一部)】

- ・道に迷っていたら優しく声をかけて道を教える。
- ・家を出て行こうとする認知症の人たちに「どこにいくと？」って声をかける。
- ・一緒にお話をしたり、お散歩に行ったりする。
- ・どんな話しても聞いてあげる。
- ・やさしくゆっくり相手がわかるように話したいです。
- ・声をかける。散歩についていく。道を教える。楽しませる。
- ・もしも家族が認知症になって、何の目的もなくどこかに行ってしまったら、待たずに探しに行く。
- ・声をかけて道に迷わないようにする。
- ・うれしい気持ちはあるから、嬉しいことをたくさん言ってあげる。
- ・優しく接したり、嫌いにならずお世話をする。
- ・出来るだけ声をかける。

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成



【山鹿市の認知症サポーター養成講座 小学校の絵本教室】

### ②肥後にわか劇団

肥後にわか劇団は、認知症の人への接し方や見守りの方法をサポートリーダー等が喜劇仕立てで公演する活動である。山鹿市内の公民館で公演する際は、地域住民が多く集まり、笑いのある明るい内容が好評を呼び、市外の行事に招かれることもある。認知症を親しみやすく、そしてわかりやすく伝える効果的な方法となっている。



【認知症出前講座 肥後にわか劇団】

## (2) 認知症初期集中支援チームの設置

山鹿市では、認知症の早期発見・早期支援の体制づくりとして認知症初期集中支援チームの取組を進めている。在宅医療による自立した生活を目標として、毎月2回実施するチーム員会議を通じて連携を図りながら進めている。認知症初期集中支援チームとして支援期間に設定している6か月経過後は、介護支援専門員等に支援を引き継いでいる。

【表4-4 山鹿市認知症初期集中支援チーム】

連携機関	職種
認知症疾患医療センター (山鹿回生病院に設置)	認知症サポート医・薬剤師・作業療法士・臨床心理士・精神保健福祉士
山鹿市地域包括支援センター	介護福祉士・保健師

出典：山鹿市福祉部長寿支援課資料よりアフターサービス推進室作成

### (3) 地域での見守り体制の整備

#### ①高齢者見守り SOS ネットワークメールの登録

山鹿市では、見守り支援の取組を多様に進めている。認知症高齢者等が行方不明になった際に、迅速な捜索を開始する取組として、高齢者見守り SOS ネットワークメールの登録がある。この取組は、行方不明者が発生すると、認知症サポーターやサポートリーダーを中心とするメールアドレスの登録者に、行方不明者の特徴などの情報が配信され、可能な場合は捜索に参加する仕組みとなっている。発見の連絡もメールを送信するなど、地域全体で行方不明者を捜索する体制が整備されている。

#### ②自治体が独自に行う見守りツールの製作

山鹿市内の熊入町区では、高齢者等が緊急搬送された場合や、認知症の方が徘徊し、保護された場合などに、迅速に氏名や住所などの身元が確認できる取組として、くまいり SOS キーホルダーを製作し、地区内の住民に配布している。山鹿市から助成等は受けず、熊入町区が自治会として製作し、独自に取り組んでいる。

### (4) 認知症の人の社会参加を支援する取組

山鹿市では、認知症の当事者が参加する活動に取り組んでいる。活動は表 4-5 のとおりであるが、2 の若年性認知症の方が参加するソフトボールチームは、静岡県富士宮市で開催されている D リーグ<sup>7</sup>の九州版を目指し、近隣の福岡県大牟田市と交流しながら活動している。

これらの活動は、認知症の人の閉じこもりがちな生活において、「症状の進行や生活状況に応じて段階を踏んだ目標を設定し、達成感を得ること」が、当事者の方の重要な支援につながることから、認知症地域支援推進員が中心となって進めている。

【表4-5 認知症の方が参加する活動】

	活動内容	将来的な目標
1	公民館で実施されている竹細工の教室に参加 ・認知症を題材とした絵本「むねとんとん」に出てくる風車を製作	市内で行われるバザーに出品して販売する
2	若年性認知症の方が参加するソフトボールチーム ・当事者は3人(50代1人、60代2人):認知症の有無に関係なく仲間としてスポーツを楽しんでいる ・近隣の福岡県大牟田市と交流しながら活動している	認知症の当事者が参加する大規模なソフトボール大会を九州圏内で実施する

出典:山鹿市福祉部長寿支援課ヒアリング内容よりアフターサービス推進室作成

<sup>7</sup> 静岡県富士宮市で毎年開催される認知症の当事者の方が参加するソフトボール大会。



## 5 取組の課題

山鹿市では、認知症支援の取組に当たって、以下を課題として挙げている。

### (1) サポートリーダーの地域活動への継続的な参画

サポートリーダー養成講座の修了者が地域活動へ参画する割合は、累計修了者の約5分の1と低い割合となっている。定例の集まりや企画の実施が主な活動だが、継続的に参画できる人材が少ないことが課題となっている。また、サポートリーダー養成講座の参加者が年々減少傾向にあり、高齢化も進んでいる。そのため、参加者の掘り起こしとともに、フォローアップ研修の企画、講座の開催方法等を再検討する必要がある。